

【所属名：教育委員会事務局こども課】

【会議名：令和5年度第2回子ども・子育て会議】

## 会 議 録

作成日 令和6年3月26日

日	令和6年3月25日(月)	時間	13:30~15:15	場所	糸魚川市役所 203・204 会議室
件名	議事 (1)令和6年度教育・保育施設等の利用定員及び申込み状況について (2)令和6年度事業について (3)第3期子ども・子育て支援事業計画の策定について (4)その他				
出席者	【委員出席者】 11人 山本会長、松本副会長、伊藤委員、中村委員、山田委員、藤田委員、 小野委員、室川委員、井伊委員、神田委員、黒坂委員 【委員欠席者】 陸川委員、山本悠委員、橋立委員 【事務局】 (教育委員会事務局) 磯野教育次長 嶋田こども課長 室橋課長補佐 田村係長 古川こども教育課長				
	傍聴者定員		一人	傍聴者数	0人

### 会議要旨

1 開会	教育次長
2 議題	
(1) 令和6年度教育・保育施設等の利用定員及び申込み状況について	
○事務局	資料に基づき説明
○委員	2歳児、1歳児、乳児の人口、まだ入所していない人数を教えてください。
○事務局	令和6年度の入所率は、0歳児、乳児についてはおおむね56%の入所率で、44%が入所していないという形になる。1歳児については約71%、2歳児については約85%の入所率となる。保育所の申込状況については、6年度途中入所の園児数を含んでいる。
(2) 令和6年度事業について	
○事務局	資料に基づき説明
○委員	出産子育て応援事業、5万円を上乗せして、すごくありがたい事業だと思う。商品券でもいいが、どうしても使うオムツ券とかミルク券なども良いと思う。 子育てとか出産とかにも経済的不安をなくすように、どんどん予算をつけて実現していただきたいと思っている。
○事務局	市では、これまでも子ども誕生お祝い事業ということで、市内共通商品券の2万4000円分

を出産の際にお渡ししていたが、子どものためのオムツやミルクを買ってくださいというメッセージをつけて渡しており、大体薬局などで利用されているので、これまでの見解としては、赤ちゃんのためのミルクやオムツに使っていただいていたと認識している。

今後、出産・子育て応援事業では、現金での給付になるが、今後も同じような形でメッセージをつけて、子どものための目的で使われるようお願いをしていきたいと思っている。

また、経済的支援という部分に関しては、昨年から子ども医療費を完全無償化したし、任意予防接種の関係も助成している。今後も必要に応じて経済的負担の軽減は考えていきたい。

#### ○委員

中学校キャリア教育フェスティバル事業について、中学3年生だけではなく、早めて、中2とか中1とか小学校6年生、職場体験に行っているが、とても素晴らしい事業なので、学年を下げて拡充してもらえればと思っている。

#### ○事務局

キャリアフェスティバルについては、中学3年生を対象として実施してきた。何年生でやるかも含めて中学校の校長先生と話をしたり、教育委員会の内部でも協議した。中学校の授業の中では段階的に、職場体験をやって、3年生でキャリアフェスティバルという位置づけになっている。多くの方から見ていただきたいのは、同様に考えているところで、昨年、コロナも5類に移行して緩和されて、今年のキャリアフェスティバルでは、希望のある保護者から事前予約で見てもらった。少しずつ枠を広げるような形でやっている。

ただ、会場の広さとブース数により、今後こういった形で拡充していけるか考えていく必要があるとは思っている。

#### ○委員

学童保育について、お金がかかるということで、子どもだけで留守番をさせる方がいる。何かあると困るので学童保育を利用するよう声かけもするが、なかなか生活が困窮していて、そのお金も難しい家庭が現実としてある。学童保育の給食費、利用料に関する補助制度は今後検討されるものか。

#### ○事務局

国からも学童保育の給食やお弁当の話もあり、全国的にもそのような流れがある。6年度に上越市で試験的に導入するという話も聞いてはいるが、例えばアレルギーや衛生的な面を心配する自治体もある。その辺も事例等を検証しながら、実際可能なかどうかも含めて検討していきたいとは思っている。

生活にお困りの家庭の児童クラブ利用料の負担軽減といったことでは、今の利用料は、おやつや消耗品などの実費相当として負担していただいている。兄弟のいる家庭などはかなり負担が大きいといったところも聞いており、市議会でも意見があったので、検討はしているが、まだ実施には至っていない状況である。

### (3) 第3期子ども・子育て支援事業計画の策定について

#### ○事務局 資料に基づき説明

質疑等なし

### (4) その他

#### ○事務局

次回の会議については、7月以降を予定している。

○委員

今日の資料で、かなりのご家庭の方が保育園に預けるのだと思った。市内の企業のタイプアップや協力がなく、家庭で、子育てを両立できないのではないかと感じた。

厚生労働省では企業に対する助成金関係をしている。年度替わりで内容がちょっとずつ変わっていったりしているが、そういうところを商工会議所や市役所の企業支援室で企業に教えてくれると、従業員もそれを使えるようになり、うまくいくと思うのでお願いしたい。

○事務局

子ども・子育て支援事業計画は、市役所内の企業支援部局も関わる中で計画策定をしている。企業への働きかけのようなどころも、計画の中に盛り込んでいるところもある。

企業の受け入れ体制が整っていると、子育てがしやすい環境も確実になると思っているので、関係部局とも話し、商工会議所等にもお願いしながら取組みをしていきたい。

○委員

昔、3歳になっても歩けなかった子が保育園で引き受けられないと、どこも断られたが、根知保育園で引き受けてもらえた。通うのも大変だったと思う。でも、その母にしてみれば、預かってもらえると本当に喜んでいて。今、そういう障害のある子の保育園の受け入れはどうなっているのか。

○事務局

症状によるが、ご相談があれば、公立保育園であればやまのい保育園で入所調整をしている。その際に専門の方から意見をいただきながら、園のほうでも保育士だけでは見れない部分があるので、看護師の配置もしながら進めている。看護師の補充ができていないということから、少しお待ちいただいたり、あるいは今の民間の施設やサービスも出てきているので、そちらのほうも紹介しながらという形になる。

民営保育所では、症状の関係もあるが、職員の加配をしながら対応している。

○委員

いろいろな子どもさんがおられて、おうちの方との連携の中で市の専門機関、保健師やめだか園とかで、そういうものにつながって教室に通うとか、言葉の心配がある子どもが言葉の教室に通うとかしながら、今は充実して、市のほうでしていただいている、おうちの方も安心しながら、保育園に通いながら専門機関を利用して子どもたちの養育を支援できるという体制が整っている。

○委員

本当に多様化しているというか、すごく需要が増えているのは感じていて、めだか園を利用する人数もすごく増えていて、スペース的な問題のお話も聞いているので、そういうところもまた拡充できたり、職員の方の支援のサポートができたりというのが増えていくといいのかなと思う。

保育園のほうも市で補助していただいて、支援できる先生をつけられるようになってきているので、活用しながら子どもさんにとっても一番いい環境を整えたいと思う。

○委員

赤ちゃんを糸魚川市で生むためにはカップルが必要だと思うが、市内でカップルが誕生しにくいと思うのは、アパート代が非常に高過ぎることが原因だと感じた。子育てとは関

係ないような、あるような感じで、不動産さんにかけて、糸魚川市のアパートを安くして、もっとアパートの安いものを作ったり、もしそれが駄目なら市で若者向け公団住宅みたいなを作れば、糸魚川市に残るカップルが増えて、子どもがいっぱい増えるんじゃないかなと思っているがいかがか。

#### ○事務局

子育てとか、結婚支援を区切ってやることもできるかと思うが、やっぱり横櫛を刺しながら、結婚・出産、子育て、また、お子さんが成長されて、また結婚・出産というような、出会いも含めて回っていくものだと思っている。そういった中で、結婚生活、新婚さんの世帯を応援しようと令和5年度から補助、引っ越し費用とか、アパート代とか、借家の費用支援をしている。

また、UIターンで移住してくる世帯の方についても、アパート代を2年間という限定だが、2万とか3万とかっていう形で支援するという制度もある。そちらについては子育て世帯とか、あるいは単身世帯、将来もしカップルで転入されてきても、多少は背中を押せるものになる。市としてもPR、見せ方が下手なところがあるので、もっと多くの方に活用いただいて、糸魚川に来ていただく、定住いただく取り組みを進めていきたいと思っている。

#### ○委員

3子、4子は幼稚園無料でありがたいが、小学校に上がると何もなくなる。学年が上がっていけば積み立てのお金も上がっていくので増えていく、中学校に上がればもっとかかるところがある。予算を見ると、産むため、産んだ後の支援は良いが、小学校に上がるころの支援がちょっと手薄と思う。

もう1人欲しいんだけどやっぱり経済的にこれ以上増えたら厳しい。やっぱ3人で終わりだとか2人で終わりだって。気持ちは欲しいっていうのはいろんなお母さん方あるんですけど、そこはやっぱ小学校とか中学校に上がっていく段階の支援が手薄だと思うがどうか。

#### ○事務局

子ども・子育て支援事業計画の策定にあたり、これまで平成26年、平成29年、令和4年に、12歳以下のお子さんがある全世帯にアンケートをとってきた。その中で3回目、2回目以降で多く出てきているのは、中学校とか高校とか、大きくなってからの支援、経済的支援が、平成26年の調査のときにはあまりなかった声が、ちょっと大きくなってきたように感じたところである。市のこれまでの支援は、乳幼児への支援とかが手厚く取り組んでいるところがあって、大きくなってからの支援は、今まで行政サイドとしてはしてこなかった部分はあるのではないかなと思っている。

県内でも、出雲崎町などは、子どもさんが例えば保育園や小学校に上がるときに祝い金をあげたり、大きくなる段階、段階でお祝い金をやっている自治体もある。市としても考えていかなければいけないが、費用的な部分もある中で、できるところとできないところはある。今後内部でしっかり検討していく中で対応を考えていきたい。

#### ○委員

全国で小規模なところでも人口を増やしたり子育てが成功したところはある。それは糸魚川とどこが違うのかということを実際に行政が考えないと駄目だと思う。

そのためには、糸魚川市はものすごく縦割りが強い。その縦割りを打破しない限りは、

そういうのは発想が出ないと思う。ぜひとも、業務のところを、縦割りをなくしてほしい。教育委員会での中の縦折りも非常に強い。

予算も効率的に使うには、やっぱり縦割りをなくしていかないと駄目だ。予算がなかったらアイデアを出すしかないので、アイデアを出した形で、有効なものを作ってほしい。

○事務局

補助金はわかりづらいが、それを咀嚼して、市民にお伝えするのが市の一つの役割でないかと思う。

縦割りとのご指摘は、私どもも十分感じていて、今年から少子化、人口減対策で庁内集まって話をしているところである。

○委員

資料1の園児の数が激減というのは、もうわかりきっているが、学校も同じように、子どもの数がどんどん減っている。施設とか今後のあり方というか、数も含めて学校も、保護者の方が今後、子どもの数が減ったときどうなるか心配している学校もあると聞いていて、他市町村を見ると、合併統合というのが出ていたりするが、市でどんな動きがあるか教えてほしい。

○事務局

この3月の市議会でもそういった質問をいくつかいただいた。学校については、山間部については10人とか20人とか、少なくなってきたのは事実である。

ただ、学校の存在が地域の拠点になっていて、学校が地域をつないでいるという役割を果たしているのも事実で、来年度から、実態を保護者、地域の方にわかっていただくような形でお話をさせていただいて、子どもたちにとって本当に大切な学び、そういったのはどういうものなのかという視点で各地域とお話をしたい。

また、保育園に関しても、皆さんにしっかり理解をしていただいで進めていかないといけない。子どもたちのためにということも含めて今後お話をさせていただくような予定にしている。

○委員

子どもの人数が減って、地区の行事も全くできない、神輿も回るが、人数が集まらないからといってPTAでやらないってことになって、普通だった保育園もなくなり、もう一切なくなった。子どもには楽しい思い出がない状態。

今の子どもたちは地区での思い出がない状態で進んで高校3年生になったときに、大体皆さん旅立って、出ていく。もっと楽しい保育園生活、楽しい小学校生活を送らせていただければ、思い出として残って、また戻ってきてくれたり、地元就職をする子もいるだろうし、ぜひ何か新しい計画をして楽しい思い出を作っていただければと思う。

○委員

閉校とかの話であるが、相談員をしていてすごく感じるのは、小さい学校で少人数がすごくいいのはよくわかる。個性を持って育てられるところもいっぱいあると思うが、実際、中学校の相談室では、半分ぐらいが小規模の小学校出身者である。

そういうのを見ると、小さすぎる学校ならではの子育てになってしまい、大人数の中での荒波にすぐやられてしまう。地域で大切な学校を守っていきたいが、そういう過渡期みたいなところに入っているかとも思うので、統廃合を考えていく上で必要かと思う。

○委員

子どもがスポーツをしてないと感じている。中学の部活の話もそうだが、選ぶ範囲が少ない。先生がいないからできないという回答をもらったりするのは、子どもの才能を潰しているんじゃないかというのがある。市でこういうスポーツやっていますと発信してほしいというのもあるし、そのできる環境を作してほしい。

来年もう一人中学校に行くが、来年外部指導になると、今のこの入る子たちはどうするのか、今そこで決めなきゃいけないとなっているのが現実で、今ある部活の中で、戸惑っている子たちが何人かいるので、その部分もう少し保護者に説明が必要だ。何かわからないで入ってこの中から選びなさいって言われている状況なので、来年その外部講師に移行すると言われても、今小学校にいるお母さんたちにも説明が必要でないか。

#### ○事務局

保護者にしっかり説明はする必要があると思っているので、そういった意見があったことに対応したい。

#### ○委員

地域の小学校の野球に入ると、親が1ヶ月に1回とか土曜日とか日曜に練習があるときに球拾いと付き添いと見張りみたいな当番が回ってくる。どっかで試合があれば親が車を出して送り迎えしなければいけない。今、人数がどんどん少なくなって、学校では部活の数が減らされて、社会体育という名目で夜の時間も行かなきゃいけない。そうするとやっぱり親が皆送り迎えできるわけじゃない。子どもだけでバスに乗っていったって、夜はバスが走っていないし、そういうのも予算の関係もあると思うが、何とか配慮してほしい。

#### ○委員

社会スポーツをしている方は大勢いるが、家族だけでできない部分は保護者同士で連携して、今日迎えに行けないからお願いしますと、そういうつながりでやられているみたいで、野球チームもすぐ隣の小学校でよくやっているが、とにかく休みになるとお父さんたちも来ていて、そこでまたお父さん同士のつながりができて、子どもに反映して育っていると感じる。その親御さん同士だったり、地域の中の関わりができたなら、また子どもにとっても良い環境かと思う。

#### ○委員

みんながみんな、今度は私が行きますと言えない人もいっぱいいると思うし、そこが難しい。

#### ○事務局

子どもたちがやりたいことができるように、総合型スポーツクラブを作っていこうと検討している。情報発信させていただいて、子どもたちから選んでもらえるような形、また他市町村の例を見ながら研究させていただいて、やらせていただければと思う。ただ、子どもたち一人一人が全て満足いくかどうかとなると非常に難しいという気持ちはあるが、それを目指してやりたいと思っている。

#### ○委員

保育園のときに何ができるか、この地域でよかったなとか、そういうやっぱり思いがベースに、小さい頃にあることが素敵だと思う。糸魚川ですっと思いながら、糸魚川が大好きっていう思いで旅立ってもらって、また戻ってきてもらうとか、どこかに行っても糸魚川のことを忘れないで、何か貢献してもらえるような子に育てるためには、地域の魅力というところでいくと、大野保育園であれば姫川が近くにあったので、姫川の安全を確

認して、四季折々姫川の方に行って川遊びをすると、子どもたちはすごい学びがいっぱい  
で、雨が降ると、地形が変わって、川の形が変わるとか、いつもあった水溜りが、今度は  
ここに移動したとか、そこをどうやって遊ぼうかって言って考えていっぱい遊びます。冬  
になると、そこでソリ滑りができるようになったりとか、魚がこの季節いたり、いなかっ  
たりとかも、何かやっぱり発見して、姫川との交流を通して、地区が大好きになっていっ  
て、それを親御さんたちに伝えて、親御さんたちとまた一緒に遊びに行ったりとか、それ  
は一例だが、そういうことを意識して、ジオにもつながるし、そこを自分は頑張りたいな  
って思っている。

### 3 閉 会

○教育次長      あいさつ